小笠原諸島世界自然遺産登録から10年の軌跡

進化と変化を続ける島々の自然と暮らしを紡ぐヒトビト

小笠原は多くの島々から成り立っており、そのほとんどが無人島です。そこでは、ここにしかいない生き物たちが進化と分化をしながら暮らしています。もちろん人が暮らす父島と母島のまちの近くにもすんでいます。

この
独自の生態系
が、小さな海洋島における生物進化を示す普遍的な価値＝
変わらないモノ
として世界に認められ、2011年に
世界自然遺産
に登録されました。

人の暮らしに影響を受けて
変わったコト
は、島の生態系と、その急激な変化に耐えられず数を減らす生き物たちです。
そんな生き物たちが再び安心して暮らせるような対策を人の手で進めているところです。

ここには、世界に誇れる自然にすむ生き物たちと、それらを“未来へ”と“暮らしに”と、
紡ぐヒトビトがいます。

小笠原
世界自然遺産
十周年

小笠原の歴史

小笠原が誕生!

約4800万年前

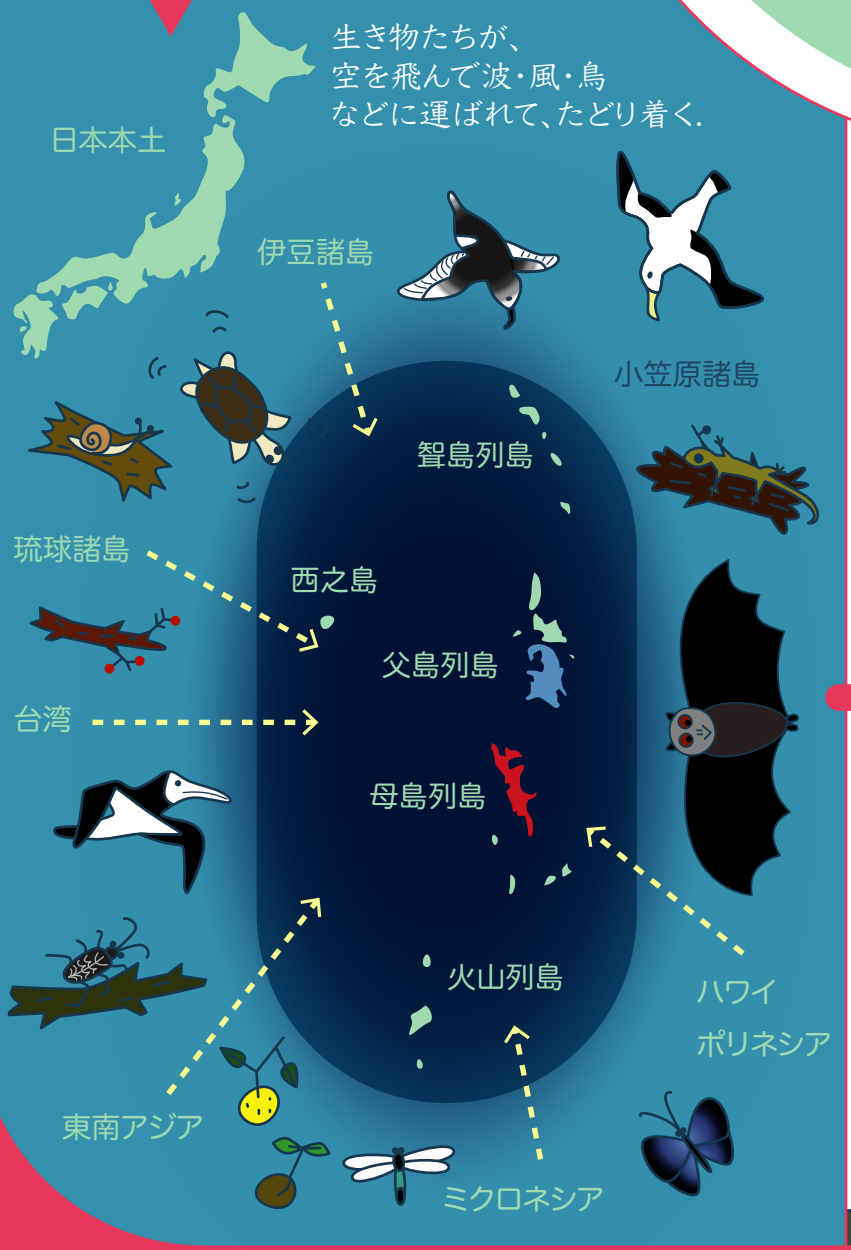
火山活動により
父島列島、
聟島列島が誕生.

約4400万年前

母島列島が誕生.

火山列島も誕生.
地質的な成長は
現在も進行中.

生き物たちが、
空を飛んで波・風・鳥
などに運ばれて、たどり着く.



変わらないモノ

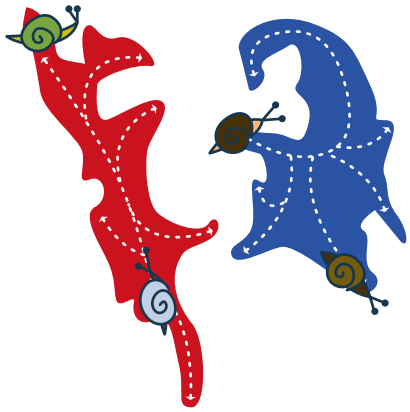
1 小さな島々の個性派 Oganimals(オガニマルズ)

多数の
島々の総面積が小さい
割に極めて高い
固有種率.

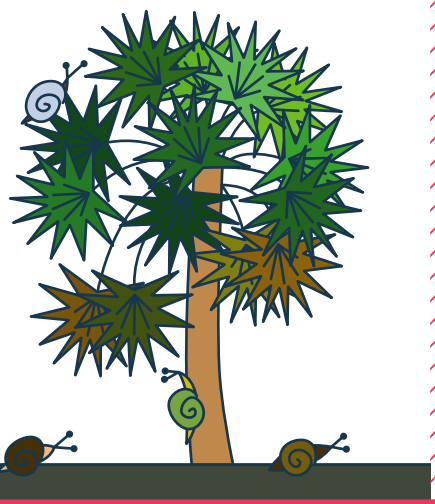
2 ユニークな森の礎

植物は種分化が活発に進行中.

生き物たちの天下の時代



環境に適応した
生き物だけが生き残り、
列島ごと島ごと場所ごとに
環境に適した形へ.



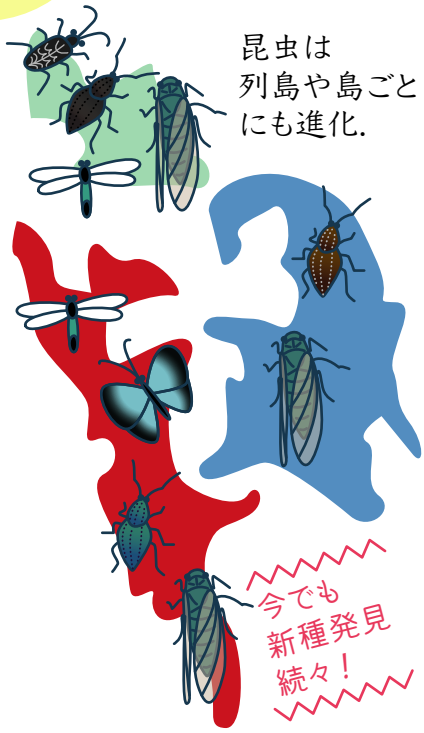
独自の進化も
ちゃくちゃくと進行

3 マイマイのイマ

写真：千葉聡

陸産貝類は様々な場所に適応して進化.

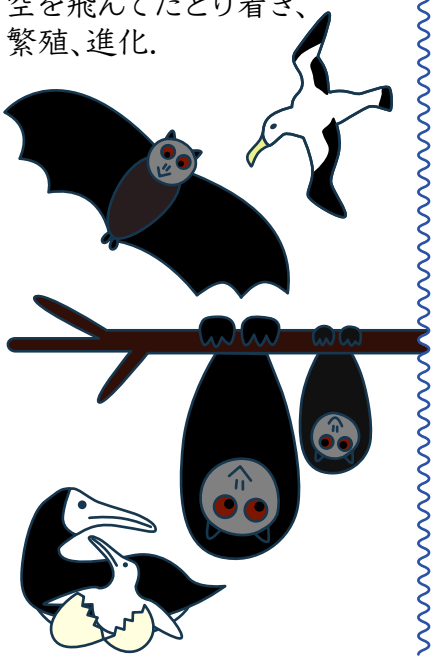
4 虫たちをムシしない



昆虫は
列島や島ごと
にも進化.

5 翼で飛んで ヨク着いた

鳥類、哺乳類は
空を飛んでたどり着き、
繁殖、進化.



人が暮らす島へ

変わったコト

約200年前、
人が生き物を連れて無人島にやってきた.

農業
冬の野菜・果樹、
サトウキビなど

漁業
クジラ、サンゴ、
マグロなど

1940年頃には
人口約7500人とピークに.

再びほぼ無人の島に

1944年の戦争
による強制疎開から
1968年の日本復帰
まで、ほとんどの人が
島を離れる※.

聟島、弟島、
北硫黄島などは
今も無人のまま.

※終戦後の米軍占領下の父島に
一部の欧米系島民が帰島.

いまの島は

1979年に村政が確立し、
戦後復興から離島振興へ
と発展.

暖かい気候と
風土が紡ぐ
食・音・祭.

魅力的な
自然を活かした
エコツーリズム
の台頭.

2011 変わったコト

小笠原諸島が世界自然遺産に登録.

遺産登録されたことで小笠原が全国に知れ渡る.

来島者の急増に伴い、外来種の侵入・拡散リスクが増加.

佐藤 博志 さん

■ 旅行手配業 ガイド

紡ぐヒト

2006年　父島に移住
い　ま　(株)小笠原ツーリスト

小笠原の好きなコト

マジックアワー
(写真用語で日没前後の30分から夜までの風景の移り変わり).

小笠原に来たきっかけを教えてください。

大学卒業後、オーストラリア一周旅行をした時にイルカの魅力にはまりました。この時に小笠原の存在を知りました。2006年、本土での仕事にやりがいはありましたが、イルカに会いたいと思い立って小笠原に移住しました。

遺産登録された当時のことを教えてください。

2011年初めの冬くらいから小笠原が世界遺産に登録されるかもしれないという話があったので、予約の電話が入り始めました。

5月には電話恐怖症になるくらい鳴りっぱなしでした。登録された時、島外は盛り上がっていたようですが、島内は落ち着いていました。「小笠原の人って遺産に冷めてますね。」と一部の報道関係の人に言われるくらいですから。↗

個人の観光客から教育旅行、外国船まで対応していたので、それから3年くらいはとても忙しかったですね。ストレスで15kgくらい太りました。今は体力作りとダイエットを兼ねてジョギングしています。

仕事や生活の中で、遺産に関わることはありますか。

観光客向けに、島に来る前から遺産をアピールすることはないですね。多くの方には、“カタツムリを見ること”よりも“遺産に行くこと”がステイタスなのだと思います。外来種対策の関係で持ち物や乗下船の際の対策への協力はお願いしています。観光客には、来島後にガイドから遺産価値や取組の話を聞き、“気づき”をしてもらうことで、遺産への理解をより深めてもらいたいと思っています。

普段は写真を撮ることが好きなので、乾性低木林を眺めたり、クジラやイルカを見に海にも出かけます。

佐藤さんは、鯨類の他に、鳥や虫、花などの色々な小笠原の生き物を撮っています。その写真を通して、佐藤さんの目に小笠原の自然はどのように映っているのでしょうか。

坂下 智宏 さん

■ 東京都

紡ぐヒト

2009〜13年　仕事で赴任

小笠原の好きなコト

シュノーケリング. カヤック.
焼酎の島レモン割. イカ釣り.

小笠原が世界遺産に登録された時、何をしていましたか。

パリで開催した世界遺産委員会にオブザーバー参加し、審議を傍聴していました。登録決定の瞬間、議長らしき人が小づちをポンと打った時、決まったんだなと実感しました。小笠原を世界にPRできる良い機会でしたね。

遺産に関わる取組は、どんなことをしましたか。

最初は、2004年に支庁土木課自然公園係に赴任しました。その時は遊歩道やビジターセンター新館などの整備に携わりました。その後、2009年に自然環境担当係長として赴任し、主に植生回復のための父島と弟島のノヤギ排除、兄島の外来植物駆除、南島・石門ガイド利用など環境保全に関わる業務を担当しました。↗

印象に残っている取組はありますか。

ちょうど遺産登録に向けた時期であり、島の人の中には、登録が島のために本当になるのか、観光客が増えて生活に悪影響が出るのではないかなど、ご不安を持つ方もいました。ただ、遺産登録は島の誇りになるはず、貴重な自然を村民に認識してもらいたいという思いから、取組への理解をお願いしていました。

無人島での作業は暑さと体力との戦いでしたが、これも作業に従事してくれる島の人の協力や理解があってこそだと思いました。

また、ノヤギを根絶した兄島では、希少な植物が確認できるようになり、短期間でも本来の自然が徐々に回復する様子が見られ、成果が表れたと感じました。

坂下さんは、「保全の取組を続けるためには島の多くの人に関わってもらうことが大事」と話していました。島の人との関わり合いを大切にうまく活かして仕事に臨んでいたことがうかがえます。

濱﨑 泰宏 さん

■ 農業者

紡ぐヒト

2004年　母島に移住

小笠原の好きなコト

のんびりゆったりした風土や気候.
海も人も好き.

農業を始めた経緯を教えてください。

島に来てすぐは、ゴミ収集の仕事をしていました。2006年頃からアルバイトと兼業で農業を始めました。

土地の開墾から取りかかり、農地にするまで一年かかりました。当時は、農業者の中でもペーペーでしたね。

2009年からは、中ノ平の農業団地で本格的に農業をしています。現在はパッションフルーツやミニトマト、レモンを育て、本土に出荷しています。↗

遺産登録されて農業関係で変わったコトはありますか。

農作物を本土に出荷するための箱に「世界自然遺産」と付け、販売したら、小笠原のPRにつながりました。買ってくれた本土の親戚や知人の中でも話題になっていたようです。

農業の他に、遺産になってから、どんな印象がありますか。

山に気軽に入れていたのが、外来種を付けて山に入らないように配慮しないといけなくなり、カタくなった気がします。

その一方で、自然保護に関する仕事が増えた印象があります。

濱﨑さんは、「アルバイトはしない！」と決意し、農業に向き合っています。どんな大変なことでも「おもしろい！」と取り組む姿が印象的でした。

星野 良二さん

■元林野庁

紡ぐヒト

2011〜13年　仕事で赴任
い　ま　　(一財)日本森林林業振興会

小笠原の好きなコト
中山峠からの景色.
ぐるりと全部見える.

小笠原にいた時の話を教えてください。

2011年に小笠原諸島森林生態系保全センターの所長として茨城森林管理署から赴任し、小笠原の森林生態系が遺産の目玉となるよう2年間働かせていただきました。

実は、1979年に総合事務所国有林課の職員として2年間赴任しました。当時は村役場も一代前の建物で、ラドフォード提督初等学校もありました。母島では戦前に沖縄から導入したアカギが広く分布していました。

遺産に関わる取組で、印象に残っていることはなんですか。

所長として再び赴任した時、アカギがさらに広がっており、生命力の凄さを実感しました。小笠原の気候・環境に合っているのですね。外来種樹木駆除対策を進めましたが、手強いですね。↗

一番苦労した作業でした。今も苦労されていると聞いています。

一方で、母島の桑の木山で本土からのボランティアによるアカギの駆除作業を1984年から続けています。リピーターも多く、30歳代から70歳代の方々に参加いただいています。

今でも小笠原に関わることはありますか。

本土に戻ってから、アカギの有効利用の検討に関わり、アカギで作ったウクレレでokeiさんと林野庁で演奏しました。いい音色を奏でるんです。アカギ製ギターは林野庁に展示されています。他には、2019年に竹芝で行われたBonin Bon-Odori Festaのクラウドファンディングに参加し、踊りに行きました。小笠原のマンゴーやパッションも毎年注文します。島から離れた後も、機会があれば島に関わっていきたいですね。

最後に星野さんは、「皆さんが小笠原の生態系(指定ルート等)を守り続けていることに感謝したい。」と話されました。

変わったコト 2012

父島東平に 侵入防止柵が完成.

対策により の目撃数が増加.

と人の暮らしに接点が増えてトラブル発生.

陸域ガイド登録制度を運用し人材育成を強化.

は、13ページを参照のこと.

井ノ口 知江 さん

■ビジターセンター解説員

紡ぐヒト

1986年　父島に移住
い　ま　BIO代表

小笠原の好きなコト
すぐ近くに海と山がある
(気分転換がすぐにできる).
ゆっくりとした暮らしや
自分の時間を持てる.
子育てに最適な場所.
濃い人間関係.

小笠原に来たきっかけを教えてください。

インドやネパールを旅した後、沖縄か小笠原に行ってみようと思っていた時、横浜のBarで見せてもらったジニービーチの写真の美しさに衝撃を受け、父島にやって来ました。

当時はラドフォード提督初等学校が残存し、横浜の米軍基地のような雰囲気に馴染みやすさも感じたものです。

その6年後には移住していました。

ビジターセンターの解説を始めた経緯を教えてください。

2002年に、小笠原の自然の魅力を伝える団体「Bonin Interpreter Organization(BIO)」が立ち上がる際に声をかけていただき、関わるようになりました。↗

声をかけられた理由は当時の代表いわく「近所だから」でした。元々本土では、スカーフの絵柄を描いており、自分の世界に入って仕事をしていればよかったので'初対面の方々との会話'に不安を抱いていました。しかし始めてみると、こんなこともできるという新たな気づきもあり、進化を続けながら現在に至ります。

遺産の取組について、どんな風に思っていますか。

とびうお桟橋の近くにねこまち(山域で捕獲されたネコの一時飼養場所)ができ、ネコ対策が平和に進み、アカガシラカラスバトが増えたことがよかったです。一人が本気になると実現できることがあると感じました。そのような小笠原であってほしいですね。これからもできることがあるはずだと思っています。

井ノ口さんは、「ここは"恋"がしたくなる島」と言っていました。そんなロマンチックな雰囲気がビジターセンターのイベントのポスターデザインに出ているのかもしれません。

オガニマルズ Oganimals

母島ハスペイのハトの群れ

©小笠原自然文化研究所

かつては幻の鳥とも言われていたアカガシラカラスバトは、様々な保全対策や皆さんのご協力により、近年では山域に限らず集落でもよく見られるようになっています。

オガサワラオオコウモリ

©井上正隆

小笠原で唯一の固有哺乳類オガサワラオオコウモリは、タコノキの実や樹木の花蜜などを好み、大型種子の散布者や植物の受粉を助ける送粉者の役割を果たしている生き物です。

2013 変わったコト

2018年の様子

兄島への侵入を確認.

兄島の昆虫保護のために緊急で対策を実施.

村民と取組等の情報共有をするために現地視察会を開始.

西之島の南東沖が噴火. 西之島と一体化し面積拡大.

は、13ページを参照のこと.

山下 淳一 さん

■環境省

紡ぐヒト

2012〜16年　仕事で赴任
三つ子のお父さん

小笠原の好きなコト

兄島(計200回くらい行っているので愛着がある). 背景の違ういろんな人たちとつながり、飲みにいける.

小笠原に来た時の話を教えてください。

2012年に自然保護官として赴任しました。その年に電線や大神山公園にアカガシラカラスバトが群れで出現し始めました。遺産登録の前から行っていた様々な保全の取組の成果が出てきたと同時に、バードストライクなど新たな対応も生じるようになったと感じました。

遺産に関わる取組で印象に残ったことはなんですか。

2013年3月に兄島でグリーンアノールが初めて確認されました。発見当時、兄島の固有の昆虫類を守るため、行政、NPO、事業者などたくさんの人たちが関わり、兄島でアノールの生息範囲を調査し、帰ってきては作戦会議というルーチンを、毎日繰り返しました。その後も、拡散防止柵の設置や捕獲方法の試行など、対策直後から関わり続けていたので、印象に残っています。↗

一方、村民には普段入れない無人島で、「何が起きているかわからない、対岸の火事のようだ」という意見もいただきました。まずは、現場の共有が大事だと考え、視察会を始めました。遺産管理のあり方を考え直すというか、地域の人たちと同じ方向を向いて話をしなければならないと考えさせられるターニングポイントであったという意味でも、印象深い出来事でした。

仕事以外ではどんなことがありましたか。

長距離を走るのが得意だったので、ロードレース4連覇しました。走る時はピンクの服を着ており、中高生からは“年に一度現れるピンキー”と呼ばれていました。野外学習で高校生と一緒に兄島でキャンプをした時、環境省の人だとやっと認識してもらえましたね。伝説のピンキーは島で妻と出会い結婚しました!

山下さんは、島を離れる時に
夫妻で盛大に見送ってもらったそうです。
それは山下夫妻の4年間の頑張りと絆の証ですね。

横山 浩一 さん

■地元事業者

紡ぐヒト

2007年　父島に移住
い　ま　小笠原グリーン(株)

小笠原の好きなコト

本土より心豊かに生活できる.
家族や仲間と一緒にいられる.

小笠原に来たきっかけを教えてください。

本土では会社勤めをしていましたが、始発から終電まで家族との時間が取れないほど働いていました。縁があって今の会社に声をかけてもらい、2007年に転職・移住しました。

遺産に関わる取組は、どんなことをしていますか。

遺産登録前は、公共施設の清掃などの維持管理業務が中心でしたが、聟島列島の植生回復事業には携わっていました。登録後は、弟島や父島の植生回復の他、兄島・母島新夕日ヶ丘のアノール侵入防止柵、その他プラナリアやヤギ・ネコ侵入防止柵など、遺産保全管理に関する業務が増えました。

印象に残っている取組はありますか。

登録前後は外来植物の駆除作業が増えました。↗

端から見たら、遺産価値を守るために騒いでいるなと思っている人もいたのではないでしょうか。私自身は、遺産管理に関する会議に出席することで、関わっている業務の目的や科学的意義を理解することができました。最近は、駆除だけでなく森林再生まで見据えた管理の仕方にシフトしてきた印象があります。

これからは、どんなことに取り組みたいですか。

これまでの業務経験と知識を活かして、外来種のいない小笠原本来の森づくりができると、観光面も暮らしも豊かになるのではと思っています。そのような場所を子どもたちの教育に活用できるとよいですね。現在でも、小学校で自然環境・公園・防災・土木に関することや小笠原の保全の取組紹介をさせていただいてます。

横山さんは、SDGs(持続可能な開発目標)や
ESD(持続可能な開発のための教育)など、
自然から教育へ、小笠原から世界へと目を向けています。

オガニマルズ Oganimals

爬虫類でござる。

かっこいい♥

オガサワラトカゲ

小笠原固有の爬虫類オガサワラトカゲは日中、道の脇や樹上で見かけます。それよりもよく見かける外来種のグリーンアノールは父島と母島の昆虫類に壊滅的な影響を与えています。

ナガレフナムシ

他の場所から海を泳いでたどり着き、進化した陸水棲動物がいます。
オガサワラヨシノボリは故郷との交流をやめ、ナガレフナムシは海域から淡水域へと進出した特異な固有種です。

吉井 嘉子 さん ■ 野生研

国分 有希 さん

横谷 みどり さん

1990年頃　父島に移住
ライフワーク
小笠原の自然を微力ながら守っていく事.（国）

紡ぐヒトタチ

1998年　父島に移住
小笠原の好きなコト
小笠原には不思議なことがたくさんあり、それを“初めて”体験するとワクワクします.（横）

1996年　父島に移住
好きなコト
自然とその力. 人.
オガサワラグワ.（吉）

地元のNPO団体である小笠原野生生物研究会（野生研）に入ったきっかけを教えてください。

（吉）島に来たときはダイビングの仕事をしていました。それから夫婦でガイド業を始めました。海のガイドですと船を持つのが大変なので、車から始められる山のガイド中心でしたね。山を案内するために植物を調べるようになり、植物に詳しい人たちがいる野生研に関わるようになりました。野生研では、小笠原の自然や保全の取組が他の地域と比べて独特なんだなと知ることが出来ました。

野生研は、どんな活動をしていますか。

（横）主に外来植物の駆除と固有種・在来種の苗や種の植栽をしています。また、海岸清掃や観察会も行っています。20年くらい前は、野生研メンバーがみんな若くて、私もパワーがあったので、毎週のように聟島や↗嫁島、南島に行っては、種を植えたり外来植物を駆除したりと、ボランティア活動に参加していました。今は主に、清瀬にある樹木園でオガサワラグワなどの苗を育てています。元々、学校で造園や花卉を学んでいたので、今の活動に少し活かせています。

小笠原の自然や遺産について、どんな風に思っていますか。

（国）遺産になる前から住んでいる人からすると、規制が出来て不便との声もあったけど、それだけ希少な場所だという意識を持って貰えたら。そして、島の為に出来る事をしていって、皆が心地よく暮らしていけたら嬉しいです。観光で来た方にも、こんな遠くまで来ていただいたのだから、小笠原の自然が綺麗だったと喜んで貰いたいです。私は子育てが終わり、ここを少しでもよくしたいという気持ちが強くなってきました。

3人とも、小笠原の自然を守る活動をとにかく楽しんで取り組んでいます。大変な作業もあるはずですが、明るく向き合うその姿に、他の人たちも励まされるはずです。

オガニマルズ Oganimals

神秘的なり。

乳房山の湿性高木林

©佐藤博志

湿性高木林は、ウドノキ、アカテツ、オガサワラグワなどの高木で形成されています。特に母島の標高が高い山には雲霧帯が形成され、キク科の木本ワダンノキなどがみられます。

小笠原ならではの森

小笠原はシダ植物の割合が多く、マルハチのように木みたいなシダもあります。加えて、オガサワラビロウやノヤシ、ヤシに似たタコノキが小笠原ならではの森の景色をつくりだしています。

変わったコト 2014

われらネコ隊。ネコかご仕掛けに、いざ山へ！

©小笠原自然文化研究所

母島新夕日ヶ丘の侵入防止柵内の昆虫類の生息が回復傾向.

母島島内施設で飼育したを野生下へ放チョウ.

順調に進む対策だが、の生息数がリバウンド傾向.

による食害をにも安全に防止する事業を開始.

伊豆鳥島から聟島に移送したアホウドリの初繁殖確認.

は、13ページを参照のこと.

梅野 ひろみ さん ■ ガイド

1995年頃　母島に移住
い　ま　フィールドエスコートhilolo
小笠原の好きなコト
海（海の様子を眺める、なんでもない日常が好き）.
山（自然の中に自分だけだと満足・幸せに感じる）.

紡ぐヒト

小笠原に来たきっかけを教えてください。

元々、南の島に憧れがあり、短期バイトで初来島しました。母島の宿でバイトしていた時、昼の5時間の休憩の間に、よく乳房山に登って植物を見て回ってました。中学生の頃、埼玉の野草調査をしていたことがあり、小笠原には知らない植物がいっぱいだなと興味がわいたからです。一旦引き上げてから6年後、家族で母島に移住しました。

ガイドを始めたきっかけを教えてください。

移住してすぐは、仕事の合間にあいかわらず乳房山によく登り、知らない植物があると島内で詳しい人に聞いたりしていました。その頃、小笠原でエコツーリズムが始まり、観光資源として自然を利用するなら、ガイドが付くのが一般的になる↗だろうと言われ始めました。その時に植物を解説するガイドに誘われて、週末限定でガイドを始めました。ガイド業の割合が増えたので、現在はそれを本業にして、合間に自然保全関係の仕事をしています。

ガイド業で印象に残っていることはありますか。

登録直後は日帰りの観光客が増えると同時に、マナーの悪さも目に付きましたが、今は落ち着きましたね。ガイドをしていると日本中の様々な人と触れ合うことができます。元気がなくても最後は元気になって帰っていったり、帰ってから18年以上経っても年賀状が続いている人もいます。みなさんが母島に関心を持ってくれるのがうれしいですね。

梅野さんは、25年前の携帯電話やインターネットのない不便だけどのんびりしていた頃を懐かしんでいました。便利で忙しい時代になったとはいえ、のんびりした雰囲気は今も母島の魅力の一つです。

2015 変わったコト

村に遺産や自然環境を担う環境課が新設.

域外保全していたを兄島へ野生復帰開始.

を保全するために父島鳥山に侵入防止柵を設置.

東島で謎の鳥オガサワラヒメミズナギドリを発見.

母島南崎の対策によっての繁殖地が回復傾向.

は、13ページを参照のこと.

渋谷 正昭 さん

■副村長

紡ぐヒト

1983年　父島に移住

小笠原の好きなコト

穏やかな気候と人柄.

小笠原に来た経緯を教えてください。

大学時代にダイビングで小笠原に来たことがあり、その後、まちづくりに興味を持ち村役場を受験し、1983年に採用されました。

遺産に関わる取組は、どんなことをしていますか。

2003年、小笠原が国内の遺産登録候補地の一つになりました。当時は竹芝の連絡事務所にいたため、選定された理由を会議で聞き、その内容を島に帰って説明していました。

2004年からは、総務課長として遺産関係の村の窓口の配備や、村民への啓蒙などを担いました。

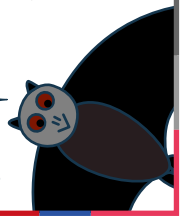
2011年、当時の副村長とともにパリの世界遺産委員会に出席しました。登録決定後に2人で文化遺産の教会などを巡ったことを今でも覚えています。↗

その前後の年には、産業観光課長として遺産と観光を連動させてうまく進めるため、エコツーリズム協議会や小笠原村観光局の立ち上げに尽力しました。

印象に残っている取組はありますか。

遺産に登録されることで、環境省や林野庁、東京都の体制が充実したことがよかったです。一方で、それだけ課題が多いことも確かでした。村も様々な事業を担うようになってきました。そこで2015年に、遺産や自然環境を担う環境課を設置しました。環境課設置前は東京都から、設置後は環境省から職員に出向いただき、様々なサポートをしていただきました。次の環境行政を担っていく人たちには、これからも頑張ってもらいたいと思います。

渋谷さんは、約40年間、小笠原の自然の変遷と行政の移り変わり、そして遺産登録という転換期をみてきました。今後の小笠原の姿をどんな風にみているのでしょうね。



武田 俊介 さん

■ガイド

紡ぐヒト

2010年　父島に移住

いま　ST Tour（外国人専門ガイド）（元BOISS）

小笠原の好きなコト

貞頼神社の例大祭（7月26日）で、神輿を担いだまま海に入って引き上げる.
毎年やらないと落ち着かない.

小笠原に来たきっかけを教えてください。

フィジーでダイビングガイドをしていましたが、日本に帰ることになった時、沖縄と迷った末に小笠原に来ました。移住した翌年に遺産登録され、新しいお客さんが増えるなど、その年の夏はとても忙しかったのを覚えています。

遺産に関わる取組は、どんなことをしていますか。

耳を壊して海のガイドを続けるのが難しくなった際、職場の人に誘われて、地元の人たちが自然保護などの活動を行うNPO団体の小笠原クラブ（現在は小笠原海洋島研究会：BOISS）に関わるようになりました。最初はトンボ類の保全の担当になりました。↗

当時はトンボには固有種がいるというくらいの知識しかなく、昆虫が好きというよりも仕事として責任と誇りを持って取り組んでいました。その後はオガサワラハンミョウやアホウドリの保全にも関わるようになり、これらの生き物の情報を気にするようになりました。

印象に残っている取組はありますか。

トンボやハンミョウの調査をするため、夏に兄島に行くと、日影が少ないのでとても暑く、歩いてるだけでもしんどい思いをします。

取組を通して、生き物の専門家の方々に興味深い話を聞く機会があり、色々な人と知り合えたことがよかったです。自分の調査が保全の役に立っているというやりがいも感じます。

武田さんの話から、保全に関わっている生き物への愛情を感じました。また、行政が行っている保全の取組に対しては、「報告だけでなくしっかりとした評価もしてほしい。」と話していました。

オガニマルズ Oganimals

オガサワラハンミョウ

兄島にしかいない甲虫オガサワラハンミョウは、日当たりのよい裸地を好む、虫を餌とするハンターです。幼虫は砂地の円筒形の竪穴におり、成虫になると地上に出てきます。

シマアカネ

小笠原固有のトンボ類は5種おり、父島では絶滅してしまいましたが、いくつかの無人島や母島に生息しています。弟島などには安定して繁殖できるよう人工池が設置されています。

川口 新太 くん
■登録年生まれ

川口 匡世 さん

子 2011年5月生まれ
小笠原の好きなコト
西海岸で釣り(釣りのことばかり考えて宿題が手につかないくらい).

母 2009年　母島に移住
2015年　父島に引っ越し
小笠原のおススメ
空がきれい. 緑もきれい.
みんなで空を見上げてみよう.
植物は外来種でも平等に美しい.

小笠原に来た時のことを教えてください。

母 2009年、夫の転職を機に夫と娘2人と母島に移住しました。地名を知っている程度で知らないことばかりで、ワクワクと同時に不安もありました。はは丸から降りた時はすごいところに来たなと思いましたが、島の人たちが歓迎してくれて手伝ってくれたりしてるうちに、ホームシックの心配もなくなりました。

新太くんが生まれる頃のことを覚えていますか。

母 最初の遺産との縁というと、2009年末に思い付きで応募した「かなえよう　小さな島の　大きな夢を!～心ひとつに小笠原～」が遺産登録に向けてのスローガンに採用されたことです。2011年5月に埼玉で末っ子の新太を生んで、7月に戻った時がちょうど遺産登録した直後で、島の人たちの間で話題になって↗ましたね。それから10年間、3人の子どもを母島と父島の自然の中で遊ばせながら育てられたのはとてもよかったです。どちらの島に行っても「おかえり」と迎えてもらえるのは幸せです。

新太くんは、普段どんなことをして遊んでいますか。

子 秘密基地を作ってます。座りやすい石を探してきたり、そこで友達とお弁当を食べたりしてます。生き物が好きで、今の一押しはとにかくカメ。海のも陸のもどっちも好きです。2020年春からクサガメを飼っていて、洲崎の"まつ"で捕まえたので、"まなつ"と名付けました。魚も好きで、チギやアカバ、オジサンなどを釣ったことがあります。食べると好きなのはチギフライです。少し前はシロテンハナムグリという虫をよく探していました。テカテカしていて白い点があってヒメツバキの花が好きみたいです。

子どもたちは、10年後には大人になって本土に旅立つことになるかもしれません。匡世さんは、「それまでは島の自然と人の中で楽しんで感謝して過ごしてほしい。」と言っていました。

変わったコト 2016

遺産登録5周年. 進化生物学の専門家ギレスピー教授来島.

母島の を保全するために 対策を開始.

を保全するために兄島等で殺鼠剤の空中散布 を実施.

父島宮之浜で の林→在来の海岸林に転換する取組を本格始動.

おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会を設立.

は、13ページを参照のこと.

森 英章 さん
■本土事業者

2010～16年　仕事で赴任
い　ま　(一財)自然環境研究センター
小笠原の宝物
島っ子(子どもたち).

小笠原に関わることになったきっかけを教えてください。

大学時代、陸産貝類を研究する千葉聡先生の母島実習の募集があり、一生に一度の思い出と考え、限定の枠を勝ち取って初来島しました。そこで島の魅力に目覚めて次の来島機会を狙い、千葉研究室に入りました。現在の職場も島とのつながりを期待して入り、2008年から出張で、2010年からは6年間赴任しました。引き揚げ後も年に2ヶ月程は通って調査をしています。

遺産に関わる取組は、どんなことをしていますか。

母島のアノール対策では、新夕日ヶ丘での防除と昆虫保全とともに、島の人たちと一緒に、その場所の将来を「考え、つくり、つかう」ことを話し合う場を開きました。世界遺産センターの設計では、野生では見られない絶滅危惧の固有種、そしてそれを保全する島の人の姿を、来館者や島の人たちに紹介したく、ガラス張りの↗保護増殖室を考えました。島でのマイマイの増殖プロジェクトは10年かかりましたが、たくさんの人の協力で野生復帰が始められています。

印象に残っている取組はありますか。

一人で生物と向き合う調査を得意としていた私には、兄島のアノール防除は大きな転換点でした。何十人にもなった協力隊の調整役は辛いこともありましたが、チームで保全できることの大きさを思い知りました。島の小学生、高校生向けの授業には学ぶことが多くありました。「今の自然が故郷の自然、今の小笠原を残したい。」と言われたことは忘れられません。本来の自然に戻すことだけが正解ではないことを教えられました。遺産登録前、自然遺産への評価を下す海外専門家(IUCN)視察のとき、母島石門の案内中に見つけて紹介したマイマイが、絶滅したと思われていた種類だとわかり、千葉先生も興奮して正式なご案内どころではなくなって、視察隊とも喜びを分かち合ったのはハプニングでハッピーな思い出です。

森さんは、島の人が保全の取組にどう関われるかをいつも考えています。そして、島の子どもたちがいつか島に戻った時に、小笠原の自然に関わることができるよう、島の自然を残しておくことを目指しています。

オガニマルズ Oganimals

オガサワラオカモノアラガイ
◎森英章

ヘタナリエンザガイ
◎森英章

小笠原固有の陸産貝類は100種類以上！
特にカタマイマイの仲間は30種近くに分かれる"適応放散"が見られます。ほかにも、落葉に張り付きやすいコンタクトレンズのような殻のヘタナリエンザガイ、湿潤な森で体を隠せないほどに殻が小さくなったオガサワラオカモノアラガイなど、彼らの姿は、小笠原が"進化の実験場"であることを教えてくれます。

2017 変わったコト

小笠原世界遺産センターが開館.

南硫黄島総合学術調査によって新たな発見続々.

有人島の対策の要望を受け、集落の防除を開始.

地元の団体と林野庁との協定による森林づくりが進行.

小笠原諸島森林生態系保護地域修復計画を改定.

は、13ページを参照のこと.

黒江 隆太 さん

■環境省

2017～21年　仕事で赴任

小笠原の好きなコト

暮らしが楽しい.
盆踊りや秋のお祭り、節分など
地域を挙げて盛り上げているから.
職場の結束力が高まるアウト
リガーカヌー大会が一番好き.

小笠原が遺産登録された時、何をしていましたか。

北海道の阿寒国立公園を管轄する川湯自然保護官事務所にいました。当時は一人体制でしたし、地元のまちづくり協議会のアドバイザーになって温泉街の再生に関わったりと、小笠原どころではなかったですね。ただ、阿寒・摩周・屈斜路地域が遺産候補地の一つとして検討された際、この地域の自然の独自性を考えたことがあり、その時に「世界遺産」を意識しました。

遺産に関わる取組で印象に残ったことはなんですか。

2017年5月に自然保護官として妻と子ども2人と一緒に赴任して、3日後には視察会の下見で兄島に行って、一週間後には世界遺産センターの開所式と、慌ただしい一週間でした。父島鳥山の外来プラナリア侵入防止柵が、同年6月にプラナリアに突破され、11月には陸産貝類が↗確認されなくなった時は、外来種の恐ろしさと対策の難しさを実感しました。

仕事は大変なことばかりですが、野外学習で高校生と一緒に兄島でキャンプをしたり、返還50周年イベントとして遺産の発表会をして、村民に色々な取組を知ってもらい、その反応を直接見ることができてうれしかったです。

小笠原での家族との思い出を教えてください。

子どもは引っ越してきてから小笠原の自然にとても詳しくなりました。家族で母島旅行をしたり、子どもの自由研究で父島のビーチを制覇したり、みんなでBBQをしたりもしました。BBQの際には子どもが小笠原のクイズを出すのが恒例でしたね。妻は、クジラを見に海に行ったり、花を見に山を歩いたりと、行ったことがないところに行くのが楽しかったようです。

黒江さんは、普段は仕事で忙しそうですが、磯の波打ち際を見たり、釣りや南洋踊りをしたりと、家族と小笠原生活を満喫したようですね。

髙橋 健 さん

■林野庁

2017～19年　仕事で赴任

小笠原のおススメ

そこにしかない生態系と独自に
進化した生き物などの自然全般.
南洋踊り.

小笠原に来た時の印象を教えてください。

2017年に小笠原諸島森林生態系保全センターの専門官として赴任し、2年間いました。その前は茨城県などで保安林や治山工事を担当し、以前から小笠原に行ってみたいと思っていました。最初は、暑い、そして海がきれいという印象です。

また、本土ではドングリのなる木をよく見ていたのですが、その種類の木がなく、本土と植生が全然違うので、植物の知識が役に立ちませんでした。ただ、1935年頃の営林署の文献で昔の小笠原の森の様子を見る機会があり、興味深かったですね。

遺産に関わる取組は、どんなことをしましたか。

林野庁は一般的に総合事務所国有林課のように、国有林の管理を担っています。↗一方で、小笠原は世界自然遺産に登録されており、私が勤務していた保全センターでは外来種駆除など遺産価値を守るための森林管理を行っていました。着任一週間後には、村民向けに森林生態系保護地域の利用講習の講師として、村民に近い立場で国有林の説明をするなど、今までとは異なる役職だと感じました。

小笠原ではどんな島に行きましたか。

母島はもちろんのこと、兄島や聟島、弟島、姉島、妹島に行きました。母島は父島と植生が異なり、すごいなと思いました。夜の居酒屋や"がじゅした(母島の人が集うまちのガジュマルの下)"に行くのも楽しみでした。兄島はとにかく暑かったです。聟島には泊まりで行ったのですが、他ではできない経験でしたね。一度だけ行った弟島では、高いところから見渡した景色がすごくきれいだったのが印象に残っています。

髙橋さんは、お酒を飲むのが好きで、一人で居酒屋に行くことも多かったそうです。「そこで人と気軽に知り合あえるコミュニティの狭さが魅力」と言っていました。

オガニマルズ Oganimals

乾性低木林

乾性低木林は、シマイスノキ、ヒメフトモモ、ヒメツバキ、唯一の固有の針葉樹シマムロなどで構成され、それらの植物は乾燥に耐えられるよう葉が小さく厚いものが多くなっています。

岩上荒原植生

兄島の台地上の露岩地は何もない裸地に見えますが、非常に希少なウラジロコムラサキやコヘラナレンなどによる岩上荒原植生が点在しています。

2014年　仕事で赴任
い　ま　小笠原高校教員
小笠原の好きなコト
晴れた日の海のきれいさ. 新

2021年3月小笠原高校を卒業
小笠原の好きなコト
ウェザーステーション
(夕日、クジラ、たまたま来た人とのおしゃべり). 森

2021年3月小笠原高校を卒業
小笠原の好きなコト
この環境
(どこに行っても景色が良い、島の人が好き). 高

紡ぐヒトタチ

小笠原高校の自然保護研究会の活動について教えてください。

新 2014年に生物教師として赴任し、2011年に立ち上がっていた同会を引き継ぎました。生徒に手伝ってもらって村民向けの海の観察会を企画したり、奥村川の干潟の生き物調査、オガサワラカワニナの研究などを行っています。調査フィールドにしている清瀬川は、街を流れているのにとてもきれいで、生き物も健全な形で残っていますよ。赴任してくるまでは、小笠原の生き物を知りませんでしたが、本土の生き物と全然違ったり特殊な面があったりしますね。

同会に入ったきっかけと印象に残った活動はなんですか。

森 小さな頃から、母とよく山を歩いていたので自然に興味を持ち、同会に入りました。生き物では鳥が好きですが、調査を通してカワニナも↗面白いなと思います。会の活動で自然のことを知ると普段の景色が違って見えてきます。

高 街より海や山にいる方が楽しくて、毎日外で遊んでいました。同会に入る前は動物に特に興味を持ってはいませんでしたが、地道な調査を手伝うことで、カワニナにも愛着がわき、魅力がわかってきちゃいましたね。

高校生の2人は、2018年にガラパゴスへ行ったそうですね。

森 高 ガラパゴスの高校生は、“とにかく自然第一、自然ありきで人がいる”という考えを持っていました。また、みんな自分の先祖をちゃんと知っていて、自分の意見がしっかりありました。街にゴミが落ちていたら、当たり前のように拾っている姿も印象的でした。

森岡さんと高野さんは、小学生の頃からガジュマル鬼ごっこやかくれんぼ、裏山探検など、毎日のように外で遊んでいたそうです。高校を卒業した2人が、これからの小笠原にどんなふうに関わってくれるか、楽しみですね。

オガニマルズ Oganimals

カツオドリ　アホウドリ類３種

カツオドリに代表される海鳥は、これまでに21種の繁殖が小笠原で確認されています。ミズナギドリ類は11～12月頃の巣立ちの時期になると、夜間に若鳥が母島や父島の集落の明かりをめがけて不時着します。不時着した若鳥は保護され、翌朝放鳥されます。聟島列島では、3種のアホウドリ類の繁殖が確認されています。

変わったコト 2018

世界自然遺産小笠原諸島管理計画を改定.

父島と母島で村民参加の森づくりを開始.

兄島の侵入防止柵の3ライン目が完成.

植生回復と保全のために媒島(翌年は嫁島)で対策を開始.

南島での対策の継続により、自然環境が改善.

は、13ページを参照のこと.

2016年　父島に移住
小笠原の好きなコト
まだまだ生き物に謎が多い未解明さが魅力.

紡ぐヒト

小笠原に来たきっかけを教えてください。

子どもの頃から虫が好きで、家の近くにあった神奈川県立生命の星・地球博物館で昆虫の専門家の苅部治紀先生の小中学生向けの昆虫講座を受け、虫を採って標本にしたりしていました。

その縁で、2016年2月に苅部先生に誘われて兄島の調査に同行したのが初来島です。その際、地元のNPO団体である小笠原自然文化研究所(IBO)の方に声をかけてもらい、4月には就職・移住していました。

遺産に関わる取組は、どんなことをしていますか。

南島や聟島列島の昆虫調査などをしています。南島には固有のハナバチ類がおり、どの季節にどんな花を利用しているかなど、年ごとの変化を見つけるとおもしろいですね。固有のハナバチ類は南島以外にもいるので、他の無人島にも行って調べてみたいですね。↗

印象に残っている取組はありますか。

2017年の南硫黄島、2019年の北硫黄島の自然環境調査の際、検疫担当として関わりました。生き物をそれらの島に持ち込まないことを徹底するため、持っていく荷物の中身を目で確認し、冷凍し、薬剤燻蒸処理をしたりしました。普段は虫が目に入っても全く嫌ではないので、今までと違う頭の使い方をしましたね。ルート工作班の荷物に大量のプロテインが入っていたり、他人の荷物を見ることはなかなかない経験でした。

仕事以外では、どんなことに興味がありますか。

ガの仲間のホラズミクチバにはまっています。戦跡の壕や洞穴におり、餌はわかってきたのですが、たくさんいる時と全くいない時があり、その原因を知りたいです。

小笠原には、未調査・未発見の虫がたくさんいるはずです。加賀さんの探求は終わりませんね。

2019 変わったコト

西之島総合学術調査によって新たな発見続々.

をテーマにした講演会「オガグワの集い」を開催.

台風が小笠原に襲来.生態系への影響と遺産関連施設に被害.

の目撃数が母島でも増加.と農業の共生へ.

は、13ページを参照のこと.

宮川 五葉 さん ■東京都レンジャー

2012年　母島に移住
小笠原のおススメ
御幸之浜園地.

小笠原に来たきっかけを教えてください。

大学時代、沖縄のカエルの研究をしていました。その縁で石垣島と奥多摩で環境省のアクティブレンジャーをしていたことがあります。その頃、小笠原が世界遺産に登録されたと聞き、行ってみたいと思っており、2012年2月に今の仕事に採用されたことで実現していましたね。

赴任する時は観光客がすごい多い頃だったので、おが丸のチケットを取るのが大変で、はは丸も満員で乗れないかもしれないと言われたのを覚えています。

遺産に関わる取組で印象に残ったことはなんですか。↗

業務で母島列島の属島に行く機会が多く、普段は行けないところに行くのはおもしろいですね。ただ、泳いで上陸しなければいけない時もあり、結構ハードです。特に姉島の南鳥島や妹島の鳥島のアホウドリ類の調査の時は、冬に泳いで上陸するので寒くて大変でした。2019年に台風21号が母島を直撃した時は、遊歩道のルートが全く分からなくなるくらい倒木などがひどく、再び開通させるためにチェーンソー作業が1ヶ月続きました。それはキツかったですね。

休日はどんな風に過ごしていますか。

ビールとウクレレとハンモックを持って浜に行き、ぼーっとしていることが好きです。その何もしない時間が簡単に手に入ることが最高ですね。本土の人たちが何万円もかけて見に来る景色が、すぐそばにいつでもあることは、いいですね。

宮川さんは、「森にいると世界の正しいバランスの中にいる気がする。」と言いながら、仕事では山や無人島に行くハードな時間、休日は海でゆっくりとした時間を過ごしています。

池田 涼平 さん ■地元事業者

父島出身
い　ま　(有)フローラ
小笠原の好きなコト
海遊び(サップ、BBQ).
仕事(毎日新しい事がある).

川島 麗央奈 さん

2015年　父島に移住
い　ま　(有)フローラ
小笠原の好きなコト
兄島(小笠原に来た原点).
仕事(いい人に囲まれている).

小笠原に来たきっかけを教えてください。

川 自然環境系の専門学校に通っていた時、授業で小笠原が紹介され、行政や専門家だけでなく島民も積極的に外来種問題に取り組んでいると知りました。自分もそういった取組に関わりたいと思い、2015年に今の会社に就職・移住しました。

遺産に関する取組に関わるようになった経緯を教えてください。

池 本土の花屋に勤めていたのですが、2011年に島に戻り、今の会社に入りました。当時は草刈りなどの土木業務が中心で、遺産になったと聞いても何のことかよくわかりませんでした。

2013年に兄島でのアノール防除対策を行うことになった時、島内の事業者としてアノール捕獲業務に携わるようになりました。当初は6人体制でしたが、現在はネズミ防除や保護増殖室の運営などの業務も増え、30人くらいのスタッフが自然環境保全に関わっています。↗

印象に残っている取組はありますか。

川 会社には様々な人たちがいます。私は環境保全の仕事がしたくて入社したので、最初は他のスタッフとの温度差を勝手に感じていました。今は、自然に興味がなくても過酷な作業に携わってくれている人たちの有難みを感じています。仕事の中で自分自身の人間性も成長できたような気がしています。

池 覚えることが多く大変でしたが、関わっていくうちに自然への興味が持てました。人員を増やすための部屋探しにも苦労しました。2018年、「自然を守ろうと移住する若者に働ける場所を作り、島での定住を後押ししている会社」とテレビで取り上げられた時、これがやってきた仕事の象徴だと感じました。

2人とも今の仕事が好きなのだそうです。
こんな人たちが島に増えていくことを願うばかりです。

田澤 誠治 さん ■宿・ガイド

1985年頃　母島に移住
い　ま　母島ユースホステル
小笠原のおススメ
海や山ががすぐそばにあって、
どちらも気軽に行ける.

ガイドと宿を始めた経緯を教えてください。

1996年頃、石門にある鍾乳洞に連れて行ってしてほしいと言われ、案内したことがきっかけです。その頃は、農業やガス配送もやっていました。その後、2000年にアンナビーチ母島ユースホステルをオープンし、2020年で20周年を迎えました。

遺産登録されてから、どんな印象がありますか。

登録前はリピーターの観光客が多かったのが、登録後はツアー客の割合が増えた印象です。遺産価値の中心はカタツムリですが、それを目的に来る人は少ないですね。↗

景色や世界遺産という冠で選んで来てるのでしょうね。ただ、小笠原の魅力が知ってもらえるなら、来るきっかけはなんでもいいですからね。

それから、東京都レンジャーや環境省のアクティブレンジャーなど、自然を守ろうと思って仕事に就く人が多くなりました。それが続いていくといいですね。

普段の暮らしで遺産に関わっていると思うことはありますか。

関わりは薄いですね。住んでいる場所のまわりは遺産地域なので、外から見たらうらやましがられるかもしれませんが、特別なことはありません。遺産であることは自慢に思います。

田澤さんは、青森の雪国出身です。
年中温暖なこの島は、「雪かきの苦労がないのがイイね。」と言っていました。寒い地域からみたら、
暖かい南国はあこがれの地なのでしょうね。

佐々木 メグミ さん
佐々木 隆幸 さん

■漁業者

紡ぐヒトタチ

1999年　母島に移住
い　ま　国設鳥獣保護区管理員
小笠原の好きなコト
海、それしかない。
海があるからいる。

母島出身
い　ま　母島漁協組合長
小笠原の好きなモノ
島魚を使った料理。

母島の漁業の様子を教えてください。

隆 親の代から母島で漁師をしていて、現在はメカジキと底釣りによるオナガダイ、アカハタを主に扱っています。遺産登録された時、漁業に変化はありませんでした。小笠原近海といっても海はつながってますからね。捕れた魚のほとんどを本土に出荷するのですが、一週間かかるので鮮度を保つことに苦心しています。

3～5月はアオウミガメ漁が解禁になります。一部は食用にし、一部は浜で産卵させて海に返しています。カメを食べる習慣は小笠原の貴重な文化なので、この文化を継承していくため、カメとの共生、自然保全との両立も進めています。

国設鳥獣保護区管理員になったきっかけを教えてください。

メ 子どもの頃から動物が好きで、家でウサギやインコを飼ってました。ドバトを保護したこともあります。小学5年生の時に鳥獣保護員体験みたいなことを一年間やったのですが、それが楽しくて鳥の種類をたくさん覚えました。2018年、子育てが落ち着いた頃、息抜きと外出するきっかけにと始めました。

母島ではどんな鳥が見られますか。

メ イソヒヨドリやメグロの他にオオバンやミサゴ、ヤツガシラなどを見ることもあります。十数年前にハクチョウが来たこともあります。珍しい種類の鳥を見るとドキドキしますね。

一方で、集落にいるネコの面倒を佐々木家がみていて、多い時には22頭いました。これ以上増えると面倒みきれなくなりますし、鳥への影響も心配ですので、村の野ネコ対策に協力し、全てのネコの避妊去勢手術とマイクロチップの装着を済ませました。その後、寿命を迎えるネコが出てきて、今は残り一頭です。

佐々木夫妻は、小笠原の生き物たちをただ守るだけではなく、命と向き合い、うまく付き合っています。

変わったコト 2020

©森英章

- を保全するために向島で 対策を開始。
- 小笠原村愛玩動物の適正な飼養及び管理に関する条例を制定。
- 聟島列島初の固有植物ムコジママンネングサを発見。
- の生息域外での繁殖個体が途絶。
- 域外保全していた を巽島へ野生復帰開始。

は、13ページを参照のこと。

伊藤　敦基 さん

■元本土事業者

紡ぐヒト

本土在住
い　ま　環境省
（元（株）プレック研究所）
小笠原の好きなコト
人の雰囲気（いい意味でざっくばらん、正直ベースで付き合える）。

小笠原に関わることになったきっかけを教えてください。

環境コンサルタントを行う会社に勤めてまして、2008年に小笠原の生態系保全に関する検討業務で主担当になりました。大阪から東京に転勤してすぐのことで、小笠原のことを何も知らないまま、調査のために初来島しました。行く前は沖縄の八重山諸島の離島のようなイメージを抱いていましたが、父島は思っていたよりも都会でしたね。それから年に1～3回、毎年来ています。夏の調査で出張した時は、ちょうど繁忙期と重なって、先代おが丸の船内の密度がすごかったことを覚えています。

遺産に関わる取組は、どんなことをしていますか。

遺産登録を目指していた頃、遺産を管理するための計画づくりに関わりました。関係行政機関が会議室に集まって、一言一句に力を入れて、みんなで朝から晩まで話し合ってました。その後は、その計画に基づき遺産を管理する取組に関わりました。具体的には、関係行政機関による遺産管理を検討する会議や有識者による科学委員会、地元の人たちによる地域連絡会議の運営サポートです。

印象に残っている取組はありますか。

夏の調査で兄島に行くと、水を6ℓ持って行っても喉が渇くくらいヘロヘロになりました。ただ、本土では見れない景色を見ることができ、都会から通っていたので、行く度に心が洗われました。無人島に行く時は、浜から小型船に直接乗り降りするのですが、それだけでも特別感があります。

伊藤さんは、小笠原に来ると島の人にすぐに見つかるくらい、とても背が高い方です。そして、小笠原の景色の美しさやお土産の質の高さに感動する物腰柔らかな心優しい方です。

オガニマルズ Oganimals

この方、せっしゃの知り合いなり。

まるで妖精♥

オガサワラカワラヒワ

©アイランズケ

オガサワラカワラヒワは種子を餌にし、南硫黄島と母島列島に生息しています。近年、カワラヒワの亜種ではなく、進化の結果、独自の特徴を持っていることが分かってきています。

オガサワラシジミ

オオバシマムラサキ

オガサワラシジミは、オオバシマムラサキのつぼみなどの小笠原固有の樹木を餌にしています。ここ数年で、母島でいくつかの目撃情報があるのみになってしまいました。

いま

生き物たちが安心して暮らせる島々へ

外来種・在来種どちらの命も大切です。
それでも小笠原でしか生きていけない生き物を守るため、生態系全体のバランスに配慮しながら、希少な生き物の保護や自然環境調査・モニタリング、外来種対策が進められています。

Oganimals（オガニマルズ）

- 湿性高木林
- 乾性低木林
- オガサワラグワ
- 固有陸産貝類
- オガサワラカワラヒワ
- アカガシラカラスバト
- ハハジマメグロ
- 海鳥
- オガサワラオオコウモリ
- オガサワラハンミョウ
- 固有トンボ類
- オガサワラシジミ

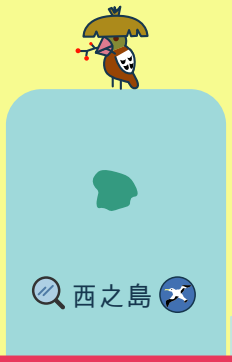
取組

- 在来の生き物を守るための外来種の侵入防止柵
- 希少な生き物の栽培・飼育・繁殖・野生復帰
- 自然環境調査、生息生育状況モニタリング

外来種対策

外来種	守りたい生き物	方法
ネズミ	植物、陸産貝類、鳥類	殺鼠剤、カゴわな
外来植物	植物・植生	伐採、薬剤
ノヤギ	植物・植生	銃器、わな
ノネコ	鳥類、哺乳類	カゴわな（捕獲後は譲渡先へ）
グリーンアノール	昆虫類	粘着トラップ
外来プラナリア類	陸産貝類	靴底洗浄、土付き苗の温浴
外来アリ類	陸産貝類	殺虫剤、土付き苗の温浴

遺産マップ



紡ぐヒト

過去をみて未来をかんがえる

昔の小笠原の様子を教えてください。

1968年に小笠原が日本に返還されました。それまでに23年間の空白があり、島への思いが捨てきれない人たちが戻ってきました。1972年に定期船の椿丸が就航し、来たい人は誰でも来れるようになりました。私は母が硫黄島出身、父が母島北村出身です。戦前の小笠原は知りませんが、島に来た時は、海も星空も素晴らしく、古き良きアメリカのような風景が残っており、ノスタルジックでロマンチックな雰囲気がありました。

私は大学時代に、魚を研究していたこともあり、海のことになると特に興味がわきます。小笠原の海は今と昔と変化はありますか。

昔から島の人は釣りに行ったり、ダイビングをしたりと海をレクリエーションの場として利用してました。戦前には捕鯨の文化もありました。最近は、それを観光資源に活用しています。捕鯨からホエールウォッチングへの転換は、新しい移住者ならではの発想ではないでしょうか。

世界遺産として世界的な価値が認められた現在の小笠原の山や森は、その豊かさや美しさに加え、学術的な面白さについても注目されていると思います。その山の自然と人とのつながりはどのようなものだと思いますか。

若い頃は仲間で海へ行ったり、スポーツしたりすることが多く、山には景色や星空を見るためのハイキング程度で行っていました。長崎や夜明山、小港から見る星は3～4時間見続けても退屈しませんでした。

島の人からすると、自然は美しいのが当たり前だったので、学術的な価値があるから遺産に登録するとなった時、興味を持つ人が少なかったのかもしれません。

遺産に登録されるまでに、村の中ではどのような動きがありましたか。

小笠原は本土から1000kmも離れているのに海路しかありません。1970年代から航空路の計画があり、当時は兄島が滑走路の予定地になっていました。しかし、一見岩場ばかりに見える兄島にも実は貴重な動植物がいることがわかり、計画は見直されました。今も続く航空路の論議の中で、自然との向き合い方を考えさせられ、成長できたと思っています。

2003年から村長になり、ちょうどこの頃から遺産の話が出ていました。村では、エコツーリズムによる観光振興を掲げつつ、遺産をただの観光資源とするのではなく、未来に引き継ぐ財産として守りたいと考えました。一方で、遺産登録されると観光客が増えることが予想できたため、自然資源を適正に持続的に利用してもらうためにエコツアー体制を整備しました。遺産登録を経て現在まで紆余曲折ありますが、小笠原が一つの村だったから、遺産に関する取組が↗国と東京都とうまく連携しながら進んだのではないでしょうか。

自然を守るのも壊すのも人です。そのバランスがとても難しいと考えています。小笠原の自然で誇れるところは、海洋島における生物進化の見本だと肌で感じました。一方で、外来種の影響で絶滅の危機に瀕し、元々いた場所ではなく本土や施設内で飼育・栽培されている動植物がいることはかなしく思います。小笠原の理想の姿を思い浮かべると、それらが再び、元の場所で見られるようになるといいなと思います。

私は小笠原に、“明るく元気で活力のある島”と“小さくてもキラリと光る島”というイメージを持っています。前者はみんなが豊かに生活し続けて発展するということ、後者はその暮らしの中で、人が意見を出し合い、譲り合いながら、貴重な自然を紡いでいくということを意味しています。

かつて、人が外来種を持ち込んでしまったことは、今では罪なことかもしれませんが、当時を想像すると生活のためにはやむを得なかったことだと思います。一方で、生活はニの次で動植物だけ守ればいいということでもありません。人が住んでいる島で自然を守っていくには、“丸く”進めないといけません。つまりは、色々な思いを持っている人たちの意見をとりまとめ、取組を理解してもらい、自然への意識を高めてもらいながら進めるということです。それは時間がかかることですが、止まってはいけないことだと思います。

バランスのとれた人と自然の関わり方を考え、進めていくには、様々な立場の方とのコミュニケーションと普及啓発の継続が根幹をなすと改めて学ぶこと出来ました。

わたしたちにもできる小笠原の自然を守るための約束

新たな外来種を侵入させない

日本の本土や沖縄などの小笠原以外の地域から、小笠原に広がるおそれのある、植物や動物、土、土の付いた苗などを持ち込まないようにしよう。

土には植物の種や小さな虫などがひそんでいることが多いのです。

外来種を広げない

山の中や他の島に行くときは、靴底や服、荷物、船(カヤック)に、種や小さな生き物がくっついたり、まぎれ込んだりしていないかチェックしよう。

靴底はブラシで泥をきれいに落としてから出かけるようにしよう。

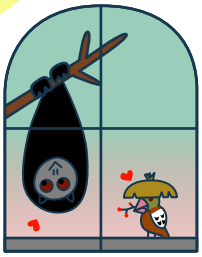
在来の生き物たちのすみかをそっとしておく

山の中に行くときには、決められたルールを守り、遊歩道やルートから踏み出さないようにしよう。

森は
生き物たちの
生活の場所

生き物も人も幸せに暮らす

人もペットも野生の生き物も穏やかに暮らせるようにしよう。ペットは登録、特にネコは避妊去勢手術やマイクロチップを入れる、室内で飼うようにしよう。



山にいるネコの多くは、捨てネコや飼いネコが産んだ仔ネコが野生化してしまったのです。

小笠原への行き方

小笠原諸島は、東京から約1,000km南にある30余りの島々の総称です。

これらの島のうち、一般の人が住んでいるのは父島と母島のみです。

制作・発行: 小笠原村環境課　04998-2-2270
100-2101 東京都小笠原村父島字西町
http://www.vill.ogasawara.tokyo.jp/
イラスト・デザイン: 羽馬有紗
令和3年6月